

MS&ADホールディングス 電話会議（2017年2月14日開催） 2016年度第3四半期決算説明会 質疑応答要旨

2017年2月14日に実施したIR電話会議の質疑応答（要旨）を以下のとおりまとめました。

なお、社名表示は以下の略称を使用しております。

持株会社：MS & ADインシュランスグループホールディングス株式会社

MS：三井住友海上火災保険株式会社

AD：あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

MSA生命：三井住友海上あいおい生命株式会社

MSP生命：三井住友海上プライマリー生命株式会社

Q1：資料4にある2016年度第3四半期の連結純利益の前期比増益の要因として国内損保事業のアーンドプレミアム（既経過保険料）の大幅な増加（+482億円）が挙げられていますが、アーンドプレミアム増加の要因について教えてください。

A1：当期の正味保険料は減収となっていますが、過去からの増収効果が遅れて現れ、アーンドプレミアムの増加となって出ています。例えば、前期の火災の商品改定影響で大幅に増収したことなども、要因のひとつとなっています。

Q2：資料10では、自動車保険の事故件数が11月・12月は増加しており、事故件数の減少傾向が底打ちしているように見えますが、今後の自動車の事故件数見通しについて教えてください。

A2：自動車の事故件数は、徐々に前年比フラットに近づいています。第4四半期については降雪により事故件数が増減するなどの季節的な要素がありますが、それを除けば今後も前年度と同水準で落ち着いていく傾向になると見込んでいます。

Q3：MSでは、年初に第4四半期に火災保険の異常危険準備金の特別繰入100億円を予定しているとのことでしたが、その予定に変更がないのか教えてください。

A3：現時点では、変更せずに計画に織り込んでいます。

Q4：年間の国内自然災害の想定に比べて、現時点ではMS、ADの2社計で150億円程度余裕があると思いますが、第4四半期の自然災害の損害が少ない場合は特別繰入の金額を増額する可能性があるのか教えてください。

A4：今のところ第4四半期末での異常危険準備金の特別繰入の金額を増やすことは考えておりません。逆に第4四半期の自然災害の損害が少なく、想定以上に異常危険準備金の残高が積みあがった場合は、100億円から減額する可能性はあります。

Q（更問）：第4四半期の自然災害が想定よりも少なく、異常危険準備金の特別繰入の金額を減額した場合、グループコア利益が上振れして、それに応じた株主還元も増えると理解していいのか教えてください。

A：国内損保については、ご指摘の通り想定よりも利益が上振れする可能性はありますが、一方では海外事業については米国のハリケーンやニュージーランドの地震など自然災害で、120億円～130億円程度（税前）の下振れがあると見込んでいます。そのため、国内損保の上振れが海外事業でのマイナス要素で相当程度相殺されると考えております。

Q5：海外事業の自然災害については、期初あまり見込んでおらず、当年度多くの自然災害が発生したために、120億円～130億円の下振れ要素となると理解していいですか。

A5：海外の自然災害については、年初では相応の金額を見込んでいましたが、2016年11月の計画見直しの時点で一定見込値を下げていました。今回は、その見込値を超えて、ハリケーンやニュージーランド地震の損害が発生し、第4四半期の業績に影響が出てくると見込んでいます。

Q6：MS Amlinについては、年初見込んでいたよりも対円のポンドの為替水準が円高になっているにも拘わらず、当期純利益116億円は年初予想を上回っているように見えますが、プラス要因について教えてください。

A6：MS Amlinの通期の当期純利益計画は、212億円であり、第3四半期の実績116億円はほぼ計画通りです。

第3四半期は市況の回復により資産運用については持ち直してきていますが、保険引受面では、大口ロスや中規模のロスが想定より多く、計画を若干下回っています。第4四半期に発生した海外の自然災害のうち過半がMS Amlinで生じており、100億円強の下振れ要因となると見込んでいます。

Q7：MSP生命の利益が想定よりも増えています。第4四半期もこの傾向が続けば価格変動準備金の繰入を行うのか教えてください。

A7：MSP生命の第3四半期については、資料24にあるとおり金利・為替の影響で+179億円となっています。一方、第1四半期では金利・為替でマイナス300億円程度の影響が出ており、価格変動準備金の取り崩しを行いました。このように、MSP生命では、金利・為替の変動が業績に与える影響が大きく、一定の価格変動準備金の残高を積み上げる必要があると考えています。今後第4四半期の相場次第で数値は変わってきますが、金利・為替の影響がプラスに出てきた場合には、価格変動準備金に繰り入れることを考えています。

Q 8 : 2017 年 1 月以降の為替変動が業績に与える影響について教えてください。

A 8 : 為替変動は、海外子会社については原則として 2016 年 1 月～12 月の期中平均レートを使用しているため通期業績に大きな影響はありません。国内については、支払備金などへの影響はありますが、資産運用面の損益と合せると利益への影響はそれほど大きくないと見込んでいます。

以 上